

資源環境経済学特別演習 II 議事録

2012年度第11回

報告題名：協業経営における経営効率性の潜在と持続的発展の可能性

— (農) アグリピースを事例として —

報告者	畠山琢磨	日時	12月20日 午後3時～
所属分野	農業経営経済学分野	場所	第二講義室
座長	井坂 友美	議事録担当者	泉井 亮平

出席者

長谷部、小山田、米澤、米倉、冬木、高篠、伊藤、スチン、水木、安部、タンボウニ、中村、山口、泉井、黄、今井、渋谷、畠山、ナスン、徐、趙、ユニクロス、劉、王偉、キエイ、井上、志賀、金、伊藤（良）、伊藤（航）

報告要旨

近年、協業による農業経営が増加している。農業生産において協業を図ることにより、生産効率が上昇するからである。協業経営体は法人化することも多く、家計と経営が分離することで、組合員同士が切磋琢磨できる環境となる。一つの経営体といえども、複数の組合員が協業しているため、その間に技術の差、生産性の差等、様々な効率性の格差が存在していると考えられる。つまり、同一の経営体内で組合員同士の効率性を最も高い水準にあわせることが可能であれば、今まで以上の経営が可能となると言える。

本研究では、秋田県横手市にある農事組合法人アグリピースという経営体を対象とした。組合員5人の経営効率性を効率性分析手法 DEA 用い計算し、ヒアリング調査によりそれぞれの経営の特徴を分析する。それらの結果から、今後あるべき法人の方向性を考察し、持続的に発展していく可能性を探る。

質疑・応答

井坂：DEA 分析の結果に関して効率性の判断はどのようにしているのか

島山：DEA 分析では結果は相対値であり 1 であれば効率的、1 以下であれば非効率的と判断できる

高篠：DEA 分析結果が 1 以下の人たちの、その原因はわかっているのか

島山：今後そこを突き詰めていきたい

高篠：なんとなくはわかっているのか、またどのような分析をするつもりなのか

島山：わかっている。分析はヒアリング調査しかできないと思う。A は就農したばかりであり技術的にも非効率

高篠：投入要素での分析もできると思うがそれについてどう考えているか

島山：それも今後考えていきたい

米沢：B について、すべての項目で効率的と判断されているが、このことがヒアリングにどのように影響しているのか

島山：B については、比較した 5 人の中で最も効率的ということ。ヒアリング結果については資料に書いてあることがすべてであり、その影響までは考慮していない

安江：個々の技術や知識が会社の経営にどのように影響しているのかといったことはどのようにみるのか

島山：DEA 分析でしか見られないと思う。あとはヒアリングをまとめるくらいしかないと思う。もしほかの方法でも分析ができるのであれば教えていただきたい

米倉：資料（グラフ）上の ABCDE は分析対象の ABCDE か

島山：ちがいます。あくまで説明用のグラフです

米倉：この効率的な生産フロンティアはどのように得られるのか

島山：産出を投入要素で割った値です

長谷部：タイトルに関して、「潜在的」や「持続的発展」はどのような意味で使っているのか

島山：経営上の人的資本が本来持っている力を最大限発揮させることによって効率性を高め、結果持続的発展につながるという意味です

長谷部：人件費と従業員数の関係はどのようなものか、その説明は一言あったほうがよい。また年代も混合させているが、20~30 代は技術的にも未熟であり 60 代になって安定すると考えれば自然なことであって、効率性の分析にどのような意味があるのか

島山：その通りかもしれないですので、今後その点も踏まえて分析を続けたい

高篠：関連して産出要素の扱い方にも問題がありそうだが

島山：問題はあります、しかしデータの制約上このようなやり方をしている

井坂：生産フロンティア上では効率性は 1 になるのですね

島山：そうです